

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人 青鳥会 地域生活支援事業所 ほほえみ 放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 16日		令和8年 2月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 13日		年 月 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児発管、現場職員ともにコミュニケーションが良くとれており、活動内容についての話や利用児の状況把握などに時間を取ることができています。環境を整備することでより良い空間を作ることが出来るのではないかと感じています。	・部署職員全員で、1日の業務に関する事など把握に努めており、ミスや漏れがないよう確認を行っています。 ・その日の活動内容についても支援学校と地域の児童と提供方法についての話をすることができています。	・長期休み(夏期、冬期、春期)については朝から児童が利用するため、出来ていた話合いや振り返りができない状況が発生しています。その際には見守り応援等をお願いしながら継続できるよう工夫していきます。
2	・記録方法について5領域に焦点を当てた記録となっているため、情報を整理しやすくしています。また、情緒面での情報共有も出来ているため良いと感じています。	・支援する中で5領域のどの領域に該当するのか考えながら支援することで記録として活かすことができています。	・記録内容を5領域だけでなく、個別支援計画の内容にも触れながら記録を残していき、日々の生活の中でモニタリングの評価を併せて行えるようにしています。
3	・活動を毎日行っています。	・活動内容を設定し、SSTや感触活動や運動遊びで感覚統合などを意識した活動内容を設定しています。	・地域の学校児童を対象とした身体を動かす活動を確立していき、行動面や情緒面の緩和につながるような取り組みをしていきたいと考えています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・活動室の広さ、スペースの確保が難しい。	・支援学校と地域の児童が同じ部屋で過ごすことで身体を動かして行動的要素を緩和していきたいが、走り回れない、他児との接触への危険性、車椅子やバギー等への接触など安全管理としてリスクが高まっています。	・支援学校と地域の児童が共存することで、環境要因として部屋の広さや空間を仕切る工夫などが必要と考えています。
2	・支援者数の確保をしていき、支援内容の充実や安全面を確保したい。	・一人ひとりの児童に寄り添って向き合うことが難しい場面も多く存在します。一人ひとりの課題、情緒面、学習面、対人関係など必要な支援を完全には行えていないのが現状です。	・職員の基本人員としては満たしているものの、支援学校と地域の児童がいることで支援者数としては足りていない部分があります。
3	・支援学校と地域の児童を受け入れることで送迎者の確保が難しくなってきた。	・部署の職員だけではすべての送迎をこなすことが出来ない。	・他部署から応援をもらいながら送迎を実施しています。 ・来年度へ向けて日によって差が出ている利用児数を家族と相談しながら調整していきたいと考えています。